

1・2学年は体験的キャリア教育、3学年では進路未定者枠対応で、“見捨てない”指導を徹底

取材・文／永井ミカ

青井高校（東京・都立）

**希望進路の実現率が
2年間で13ポイント増加**

東京都立青井高校は「社会人基礎力を伸ばす学校」「キャリア教育で未来を拓く学校」の2つを教育活動の柱とし、幸田諭昭校長のもと「青井フィロソフィ」と銘打った改革を進めている。

同校には学力や家庭環境の面で課題を抱えた生徒も少なからずおり、転退学者の数が最も深刻だった約10年前には、入学時の240人から135人にまで卒業生が減ったこともあった。

事態を打開するため同校はキャリア教育や学習支援等に力を入れる方針を定め、2012年度、東京都教育委員会から重点支援校の指定を受ける。

翌13年度、進路指導部主任として着任した浦部ひとみ先生を中心に、NPOなどの外部団体と連携した体験的キャリア教育のプログラムへの取り組みを開始。結果、希望進路の実現率は14年3月の75%から16年3月の88%に躍進。16年度のキャリア教育に関する文部科学大臣表彰の受賞校にもなった。

**外部団体の協力を仰ぎ
視野を広げさせる**

3年間のキャリア教育プログラムを「キャリアデザインI・II・III」として、ドラマケーションプログラムなど外部団体と連携した体験的授業を多く取り入れた同校。1年生では東京都独自の「学校設定教科」人間としての在り方生

き方に関する教科「人間と社会」を「総合的な学習の時間」で実施しキャリア教育の基本的姿勢を身に付けさせている。ちなみに浦部先生は、「人間と社会」の教科書の編纂に携わった一人でもある。

しかし最初からすべてが順調に進んだわけではない。「課題の多い学校ですから、外の人に入ってもらうことに抵抗感をもつ先生もいらっしゃいました」と浦部先生。例えば「大学生とのワーク」にしても、生徒は楽しく充実した時間を過ごせているのに、「本校の生徒は大学への進学希望も少なく、大学生と接することには意味がない」などと一方的に決めつける声もあったという。

それでも諦めずに、学校外の人の関りが必要と訴え続けた浦部先生。「地域性もあり狭い範囲の中だけで生活が完結している生徒も少なくありません。自分の将来像のモデルになるような魅力的な大人との出会いのチャンスも少ないのです。限られた範囲の中でだけ将来像を描くのではなく、学校が、社会へとつながる人との出会いの場になれないかと考えました」と言う。

2年目からは前年度の反省も踏まえ、外部団体と教員との協力体制を築くべくさまざまな工夫を行なった。具体的には、事前事後の情報・意見交換の時間を明確に設定することで、外部団体と緊密なコミュニケーションを取るようになった。また、教員が授業者であり、授業を主導する立場であるこ

目指す生徒像

未来を切り拓いていける生徒

入学時

- 地域社会の中に安住し、外の世界との接点が少ない。家庭などにさまざまな課題を抱える生徒も。

生徒

自己理解
進路情報収集
進路計画立案

進路選択時

- 外的世界へ目を向け、進路を決定してから卒業するという意識をもつように。学習意欲の高まりも見られる。

プログラム・仕組み

- 外部機関との連携した体験的学習(ドラマケーション、金銭教育など)
- 東京都「人間と社会」との運動
- 勉強部活動「まなぶ」による学習支援
- ユースソーシャルワーカーとの連携(中退防止対策、進路未定者対策)

教員の関わり・姿勢

- 各担任がクラスの進路決定率を意識
- 外部講師任せにせず、必ず担任が指導するという意識をもつ
- どの生徒へも「見捨てない」気持ちで接する
- 生徒と一緒に楽しんで学ぶ

とをあらためて確認することで、「お任せ」の姿勢を払拭した。そしてポイントは、疑問点・問題点があった場合、事前のすり合わせ、もしくは授業の進行中に提示すること。浦部先生は、授業の間、各クラスを見て回り、問題があったらその場で指摘してもらうよう先生方に伝えた。「ワークが終わってからで

は、解決できるものもできなくなるのとがあるのです。課題を先送りしないで現場に向き合う姿勢が重要です」。結果、2年目からはプログラムがうまく回り始め、「ドラマケーションはクラスの間関係作りにも役立つので、もっと早い時期にできないか」など前向きな意見も担任から出てくるようになって

図1 「キャリアデザインI・II・III」年間予定(一部略)

	1学年	2学年	3学年
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション ●進路見学会 ●宿泊防災訓練 ●「進路の手引き」解説 ★「高校生活を考える」ワーク ★大学生によるネットリタラシ講座 ●期末考査に向けて、夏休みの目標・課題(職業人インタビュー、オープンキャンパスについて、インターンシップ呼びかけ) ★職業理解教育 ●奉仕体験活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション、進路指導部からの説明、「進路の手引き」解説 ●進路実現に向けて・進学と就職の概要 ★「進路を考える」ワーク ★進路セミナー ●期末考査に向けて、夏休みの目標・課題(職業人インタビュー、オープンキャンパスについて) 	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション、進路指導部からの説明、「進路の手引き」解説 ●分野別ガイダンス ★進路別学習「大学・短大」「専門学校」「就職・公務員」「その他」に分かれて学習。「その他」は主に志望が定まらない生徒で、ソーシャルワーカーなども入り個別相談などを行っている。
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ●科目選択 ★ドラマケーションプログラム①～④ ★金銭教育(マネーコネクション) 	<ul style="list-style-type: none"> ★金銭教育(奨学金、高卒就職について) ★ドラマケーション・ロールプレイ模擬面接①～② ●科目選択について ●上級学校訪問 	
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ●冬休みの振り返り、進路別学習事前指導 ●奉仕体験活動 ★キャリア教育講座 ●ライブプラン講演、演劇、「業界」と「学び」研究ガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ★ドラマケーション・ロールプレイ模擬面接③ ★進路ガイダンス(進路別学習①～③) ●卒業生講話 	<p>※★印は外部団体との連携 ※各取り組みの事前事後指導は記載を省略</p>



進路指導部主任
浦部ひとみ先生

進路未定者への個別指導や
きめ細やかな学習支援

2年生の終わりからは、「大学・短大進学」「専門学校進学」「就職」「未定」というグループ分けで、進路志望別のキャリア教育に移行する。以前は「進学以外はすべて就職、世の中に未定と

た。「人間と社会」では、担任をはじめ、1クラス3人の教師が、事前指導、体験、事後指導の流れの中で授業を行う。クラスの変化を最も敏感に感じ取るのはやはり担任だそう。

か就職かで迷う生徒も含めた「未定」グループでは、東京都派遣のユースソーシャルワーカーや担任、進路指導教員などと個別にじっくり話し合っていくことにした。ハローワークなど、ここで

いう人はいない」などの意見から、かなりの温度差のある生徒を「就職」という括りの枠の中で指導し、うまくいかなかった経験がある。浦部先生から担任の先生には、「未定」のネーミングがそぐわないのであれば「総合相談」でもよいので、進路に迷っている生徒を別枠で指導させてもらえないかと提案。進学

また、やはり東京都より支援を受け、NPOと教員とのコラボによる勉強部活動「まなぶ」を年間20回実施。大学への進学意識の高い生徒、授業の補習が必要な生徒、どのような生徒に対して

も外部機関と連携し、それがきっかけとなって保護者に来てもらい面談することになった例も多い。「とにかく気持ち一つ、どのような生徒も決して見捨てないというだけです」と浦部先生は言う。この取り組みは進路指導だけでなく、学校生活全体への取り組みの仕方の改善にも一役買っている。

NPO法人キッズドアと連携。6～7人のグループごとに大学生1人が入り、1年生は「高校生活を考える」ワーク、2年生は「進路を考える」ワークに取り組む。



俳優を講師に招き演技や演劇を通して自己開発やコミュニケーション能力向上を図るドラマケーションプログラム。青井高校ではキャリア教育の一環として1年生で4回、2年生で3回実施している。

ドラマケーションから生徒が感じたこと

- アイコンタクトをすることは大切なことだと思いました。先生(注：外部講師)が、この先つらいこともあるけれど、どんなときでも笑顔で明るくがんばれば楽しくなると言っていて、これから辛いことがあっても笑顔で明るくがんばろうと思いました。
- しゃべらなくてもコミュニケーションはとれるんだと思った。コミュニケーションは人生で役に立つものだと実感した。この授業を通して、自分のことも他人のことも知れた気がした。
- 「人はたくさんの考えをもっていて、自分がもっていない考えをもっている人たちが集まるから楽しい」ということ、「人が加わることによって考えが広がっていく」ということ。自分の中の考えもこの4時間で増えました。たくさんのことに対して視野を広げて、いろいろなことに挑戦していきたいです。
- あっという間に時間が過ぎてすぐ大人になってしまうから、今を大事にするのだということが印象に残りました。無駄な時間だと思わずに、今やっていることすべてが将来に関わるのだと思って時間を大切にしたい。

もきめ細やかな学習支援を行っている。学習カルテを作成し継続的に支援。参加延べ人数は14年度は427人、15年度は1181人、16年度は1月現在で1489人と、2000人に迫る勢いである。

これらの取り組みの成果は前述したように数字に表れている。「数字だけを見るわけにはいきませんが、若い先生などは『自分のクラスの進路未定者をゼロにする』と公言し奮闘しています」と浦部先生。「卒業するときには次になんばれる場所を決めていた」と言った生徒の言葉が印象に残っているそう。